

## 2015年6月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、西シベリア、ベーリング海、米国西部で正偏差、ヨーロッパ北部で負偏差となった。日本付近、北米から大西洋西部にかけての偏西風は、平年より強かった。帯状平均した対流圏の気温は、南極付近を除き高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、太平洋赤道域、ニューギニア島の東で活発、南シナ海からフィリピンの東で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、前半にアフリカからインド洋、後半にインドネシア付近から太平洋にみられた。対流圏下層の赤道域では、太平洋西部～中部で南北半球対の低気圧性循環偏差となり、西風偏差が卓越した。対流圏上層では、亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンがみられた。南方振動指数は-0.9だった。

### 世界の天候

2015年6月の世界の月平均気温偏差は+0.41°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

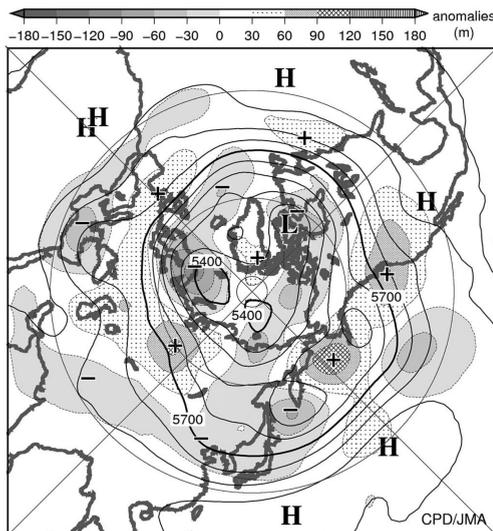
- 日本の南～インドシナ半島北部では異常高温となった。
- 西アフリカ南部では異常高温・異常少雨となった。
- カナダ南西部～米国北西部では異常高温・異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

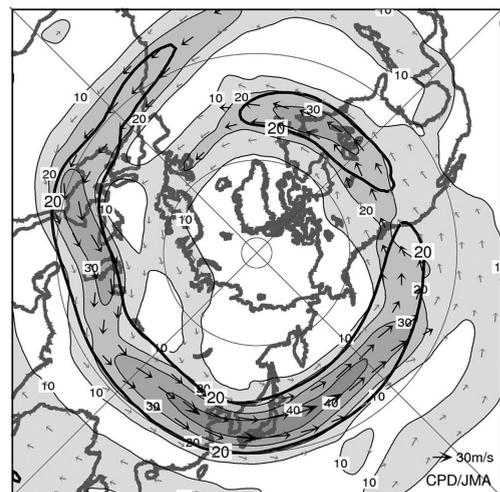
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



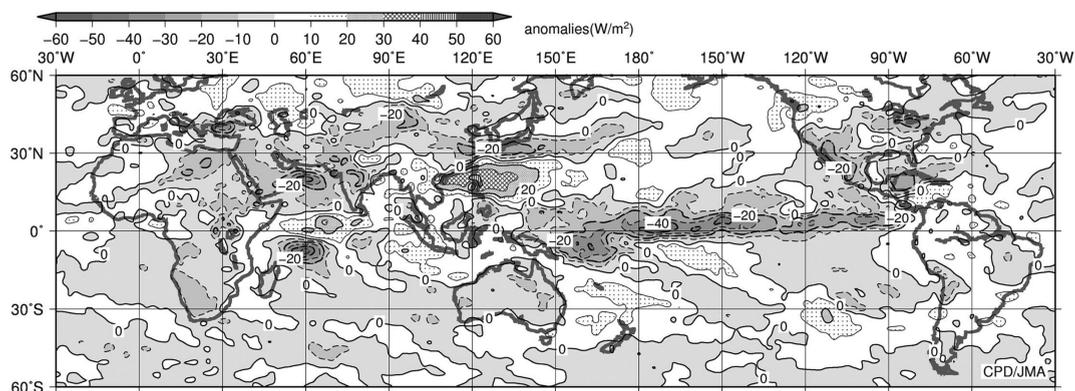
2015年6月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



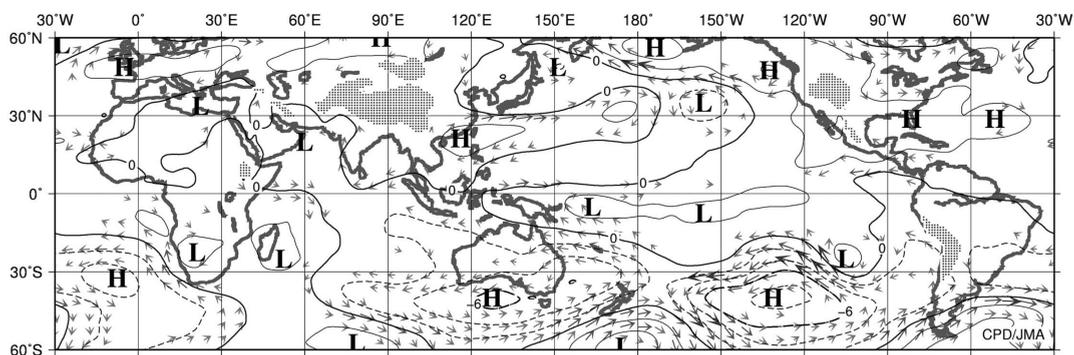
2015年6月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。

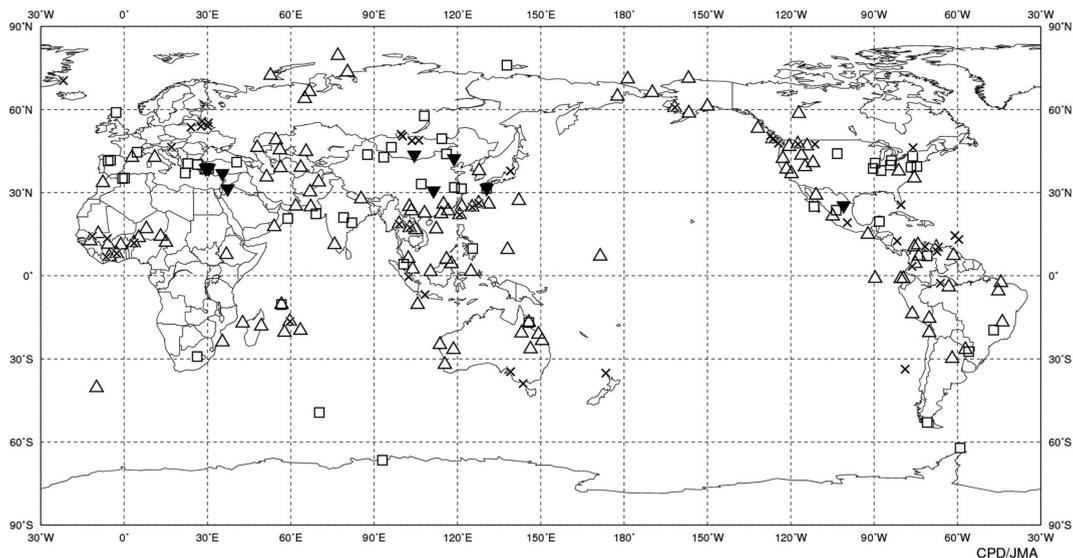


2015年6月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2015年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2015年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。